

①研究業績

2. 論文

- ・「日本人学生とアメリカ人留学生による英語を介した共同プログラムに関する報告」依田 泉・鈴木辰一・中川健司・中西貴行・C.Bussinger・R.Betts・柳田恵美子・渡邊真由美『常磐国際 紀要』(17) pp.75-90, 2013 年 3 月
- ・「新カリキュラム介護福祉士国家試験受験に向けた漢字学習の効率化に関する一考察」中川健司『専門日本語教育研究』(14) pp. 41-46, 2012 年 12 月
- ・「二漢字語を媒介とした介護専門用語学習の有効性—基礎医学術語との比較を通して—」中川健司『東京医科歯科大学国際交流センター紀要』(5) pp.14-22, 2012 年 11 月
- ・「介護福祉士国家試験対応漢字学習ウェブサイトの開発」中川健司・角南北斗『東京医科歯科大学国際交流センター紀要』(4) pp. 2-12 2011 年 11 月
- ・「介護福祉士候補者が国家試験を受験する上で必要な漢字知識の検証」中川健司『日本語教育』(147) pp. 79-92 2010 年 12 月
- ・「基礎医学術語を学ぶ上で優先的に学習すべき漢字の選定—二漢字語及び基礎医学術語中の出現漢字傾向調査を基に—」中川健司『日本語教育』(145) pp. 61-70 2010 年 4 月

3. 科研費実績

- ・基盤研究 (C) 平成 24 年度～26 年度、課題番号 24520581

研究代表者：中川健司

研究分担者：中村英三（長野大学）、宮本秀樹（常磐大学）、布尾勝一郎（佐賀大学）

研究協力者：角南北斗（フリーランス）、齊藤真美（関西国際大学）、山岸周作（上田福祉敬愛学院）

研究課題名：E P A 介護福祉士候補者を対象とした国家試験受験に向けた漢字学習ウェブサイトの開発

4. 学会発表・他

4-1 学会発表

- ・「自律学習に向けた漢字語彙学習ウェブサイト『介護の漢字サポーター インドネシア語版』」中川健司・角南北斗・齊藤真美・布尾勝一郎 2013 年度日本語教育学会秋季大会 2013 年 10 月 13 日
- ・「漢字学習ウェブサイト『介護の漢字サポーター』開発過程で直面した課題」中川健司・中村英三・角南北斗・齊藤真美・布尾勝一郎・宮本秀樹・山岸 周作 第 37 回日本語教育方

法研究会 2013 年 3 月 10 日

・「介護用語におけるカタカナ語の様相」 中川健司 第 15 回専門日本語教育学会研究討論会 2013 年 3 月 2 日

・「社会福祉士国家試験科目における学習支援にかかる一考察－科目ポジショニングマップを活用して－」 中川健司・中村英三・宮本秀樹 第 59 回日本社会福祉学会 2011 年 10 月 8 日

・「介護福祉士国家試験における科目別学習漢字選定の試み」 中川健司・中村英三・角南北斗・齊藤真美 第 13 回専門日本語教育学会研究討論会 2011 年 3 月 5 日

4－2 ウェブサイト運営

・「介護の漢字サポーター 英語版」 <<http://kaigo-kanji.com>> (2012 年 8 月～)

・「介護の漢字サポーター インドネシア語版」 <<http://kaigo-kanji.com/?language=id>> (2013 年 8 月～)

・「介護のことばサーチ」 <<http://kaigo-kotoba.com>> (2014 年 3 月～)

②社会活動

・FY2012 AIU (国際教養大学) President' s Project 学外分担者

③学内活動

1. 学内委員

・全学教育部会委員 (2013 年 10 月～)

・留学生センターサーバー管理責任者 (2013 年 10 月～)

2. 留学生センター内委員

・教務担当 (2013 年 8 月～)

・コンピュータ・広報委員 (2013 年 10 月～)

3. 日本語部内業務

・YNU スピーチ大会 2013 実行委員長 (2013 年度)

・JOY プログラム日本語教育コーディネーター

①研究業績

1. 著書

- ・陶徳民等編『近代東アジアの経済倫理とその実践—渋沢栄一と張謇を中心に』（共著）日本経済評論社、2009 年
- ・片岡龍・金泰昌編『公共する人間 2 石田梅岩 公共商道の志を实践した町人教育者』（共著）東京大学出版会、2011 年

2. 論文

- ・『経世済民』からみる儒学と『啓蒙』との関係—西周と張謇の例を通じて」（単著、査読あり）、島根県立大学北東アジア地域研究センター『北東アジア研究』17 号、2009 年
- ・「近代日中両国の商業教育の特徴に関する一考察—福沢諭吉の教育構想における『公・私』観を中心に」（単著、査読なし）、関西大学文化交渉学教育研究拠点『東アジア文化交渉研究』第 2 号、2009 年
- ・「梁啓超の国家観に関する一考察—『国権』、『国民』論を中心に」（単著、査読なし）、『横浜国立大学教育人間科学部紀要Ⅱ（人文科学）No.12』、2010 年
- ・「近代日中実業界からみる民間外交の一側面—南洋勸業会と近藤渡清実業団を中心に—」（単著、査読あり）、同上、23 号、2012 年

3. 科研費実績

- ・「日中両国の商人における『義・利』『公・私』思想の比較研究」（科学研究費補助金（若手研究 B））2009 年度～2011 年度

4. 学会発表・他

- ・「近藤渡清実業団と南洋勸業会」、経営史学会、2010 年
- ・「近代日中両国における実業家団体の交流についての一考察」、フォーラム：アジア多元文化交渉の諸相、2011 年
- ・「渋沢栄一研究の現状と課題」、渋沢史料館 30 周年記念パネル・ディスカッション『飛鳥山から世界へ』、2012 年
- ・“Zhang Jian and the transfer of Western business methods through Japan into

China”, First World Business History Conference, Frankfurt, Mar.2014

・ “*How Did Eiichi Shibusawa View China?*”, Association For Asian Studies 2014 Annual Conference, Philadelphia, Mar.2014

(その他)

論説：

・「人物研究からみる『公共哲学』の可能性」、京都フォーラム事務局『公共的良識人』第222号、2010年

書評：

・「金泰昌編著『公共哲学を語りあう』について」、京都フォーラム事務局『公共的良識人』第227号、2010年

・「周見著『張謇と渋沢栄一—近代中日企業家の比較研究』について」、渋沢史料館『渋沢研究』23号、2011年

②社会活動

公開講座「経済人の論語読み」の開催、横浜国立大学教育文化ホール、2010年

③学内活動

- ・ 外国語小委員会委員（2011年4月～2012年3月）
- ・ 教育人間科学部安全衛生委員会委員（2011年4月～2012年3月）
- ・ 留学生センター運営委員会委員（2011年4月～2012年3月）
- ・ 国際交流委員会委員（2013年4月～現在に至る）

①研究業績

2. 論文

- ・「横浜国立大学における中国語履修者を対象とした意識調査」『大学教育総合センター紀要』(2) pp. 1-15 平成 24 年 7 月
- ・「現代中国語における否定表現“没有”、“不是”、“不”の選択を支配するメカニズムについて」お茶の水女子大学博士後期課程学位論文 平成 23 年 3 月

4. 学会発表・他

- ・新沼雅代 『横浜国立大学における中国語履修者の学習方略観と習得観－ 学生が考える「中国語ができるようになるには」「中国語ができる」とは－』 日本中国語学会平成 25 年度第 5 回関東支部例会 お茶の水女子大学中国文学会共催（お茶の水女子大学）平成 25 年 12 月
- ・新沼雅代『中国語を母語とする日本語学習者の作文にみられる「主語の不明示」と「接続表現の欠如」の問題について』 日本語教育国際研究大会（名古屋大学）予稿集第二分冊 p.170 平成 24 年 8 月
- ・孟慶栄 新沼雅代「ハイブリッド型外国語人材育成の実践的探求」日本語教育国際研究大会（名古屋大学）予稿集第二分冊 p.131 平成 24 年 8 月

（その他）

翻訳

- ・新沼雅代（単訳）潘海華・韓景泉（著）「中国語の残留目的語構造の統語生成メカニズム」『日中理論言語学の新展望 1 統語構造』pp.167-191 くろしお出版 平成 23 年 12 月

ポスターセッション

- ・新沼雅代「“有”構文の“有”の性質について」日本中国語学会第 60 回全国大会（神奈川大学）予稿集 pp. 52-56 平成 22 年 11 月

②学内活動

- ・新 CALL システム調達コンペ審査員（2013・12）
- ・情報システム運用部会（2013・12～）
- ・国際戦略推進機構『ときわの杜論叢』創刊号編集委員（2013・4～）
- ・全学教育部会（2011・4～2012・3）

5 投稿規定

執筆者紹介

編集後記



横浜国立大学『ときわの杜論叢』（編集発行：横浜国立大学国際戦略推進機構）

『ときわの杜論叢』第二号 刊行内規

第 1 条

横浜国立大学国際戦略推進機構『ときわの杜論叢』（編集発行：横浜国立大学国際戦略推進機構）（以下、「第二号」と言う）の刊行等については、本内規の定めるところによる。英文名は、*The Journal Of Tokiwanomori* とする。

第 2 条 刊行の目的

第二号は、横浜国立大学国際戦略推進機構の専任教員（以下、「専任教員」と言う）及び専任教員とともに本機構で教育研究活動等に従事する者の教育研究活動等に関連する研究論文或いは活動報告等を内外に公表することを目的とし、平成 27 年 3 月に刊行を予定する。

第 3 条 投稿資格

投稿年度において本機構の専任教員である者、あるいは、同専任教員とともに本機構で教育研究活動等に従事する教員または研究員である者。なお依頼原稿等はこの限りではない。

第 4 条 編集委員会

第二号の編集及び刊行等に関する業務は、本機構の専任教員の中から編集委員会を組織して行う。投稿された研究論文、研究ノート、実践・調査報告については、別に定める規定により、編集委員会が委嘱する学内外の複数の論文審査委員によって匿名式で査読され、編集委員会が査読結果に基づいて掲載の可否を決定する。また、第二号に掲載した論文等の中で、問題があると編集委員会が判断をした場合は、必要に応じて論文或いは問題個所を編集委員会が削除できる。

編集委員は、任期一年とする。ただし、再任を妨げるものではない。特定の教員に編集委員が偏らないようにすること。英語教育部、日本語教育部、初修外国語教育部・企画推進部門から各一名選出し、計三名で編集委員会を構成する。

第 5 条 電子化等に関する権利等

第二号に掲載された研究論文或いは活動報告等の出版、翻訳、抄録、複写、デジタル化及びネットワーク上への提供、その他第二号の利活用に係る全ての権利は本機構に帰属する。

第二号は、横浜国立大学附属図書館において学術情報リポジトリコンテンツとして公開

する。

第 6 条 著作権¹

第二号に掲載された著作物の 2 次（3 次）使用は編集委員会の判断に委ねる。

第 7 条 投稿規定

投稿規定は別に定める。

¹ （お願い）第二号に掲載された個々の著作物について、著作権侵害、または、その他の紛争等が生じた場合は、当該著作物執筆者の責任において処理する。